

令和6年3月14日

京都鞍馬口医療センター 第12回地域連絡協議会 議事概要

日時 令和6年3月14日(金) 14:00 ~14:40

出席者	上京東部医師会 会長	飯田 明男 先生
	紫明社会福祉協議会 会長	柴山 泰朗 様
	利用者代表	山田 友恵 様

(京都鞍馬口医療センター)

院長	水野 敏樹
副院長	山崎 正貴
副院長	山下 哲郎
看護部長	松原 栄子
副看護部長	酒井 美枝
総務企画課長	足立 拓也
訪問看護ステーション師長	谷口 ゆり

1. 開催の挨拶 (水野院長)

当院へ入院してコロナに感染された方もおられ申し訳なく思っております。

院内の感染状況のこともあり直接患者さんのところへ会いに行く、お見舞いに行くことがなかなかオープンにできず残念ではあります。

来年度は診療報酬改定の時期にあたり、今回の改定で病院の在り方が問われる改定となっているので、今後どういった形で病院を運営していくのかシュミレーションを重ねながら考えているところであります。地域に根差した病院というのが当院の基本であると考えています。高齢者救急であるとか地域の皆様の安心のためにも積極的に対応していかないといけないと考えております。

引き続き地域の先生方、地域の皆様方から色々ご意見をいただきながら、当院の在り方を考えれいけないと思っておりますので、忌憚のない意見をいただければと思

ます。

2. 委員（出席者）紹介

名簿の通り

3. 活動状況報告等 ※詳細：別紙参照

①「訪問看護ステーションについて」（谷口訪問看護ステーション師長）

資料に沿って説明

②「市民公開講座について」（足立総務企画課長）

資料に沿って説明

4. 意見交換

飯田) 訪問看護ステーションについて、病院ベースの訪問看護ステーションや行政ベースの訪問看護ステーション、医師会ベースに訪問看護ステーションがあり非常に日々ありがたく思っております。以前勤務していた関係もあり西陣病院の訪問看護に頼んだりすることが多いが、資料のマップを見ていると上京区がすっぽり活動範囲に入っているようになっているので、患者さんのアクセス等を考えて今後よろしくお願ひしたい。

話は変わるが、先月日赤ともこのような会議があり、そこで話に出たのが、働き方改革と救急医療の問題であった。日赤では二次救急の時でも 22 時以降の救急受入はかなりきつい、その結果三次救急に流れてしまうこともあるし、今後病院としての対応は実際やってみないとわからない、やりながら考えるという見解であった。1 つ問題となるのが、医師の応召義務と働き方改革の整合性であり、厚労省もまだ結論を出していない。

医師の過剰勤務によるミス等 1990 年代後半、2000 年代に医療不信に陥る様々な問題があったが、過剰勤務によってミスが起きていることが多いが、医師側は応召義務があるから断れず見ざるを得ない状況となっている。働き方改革と応召義務の整合性をどう保つのかすごく難しい問題。

コロナ前の厚労省の班会議ではある弁護士は、最終的な結論はわからないが、労

働時間超過は有意に診療を断る理由になり得ると発言していた。令和元年、コロナ禍では働き方改革の厚労省通達が緩んだことがあった。

1 つはペーシエントハラスメントに対して医師への暴言、暴行といった威力業務妨害等で信頼関係が破綻している場合は診療拒否ができる。

2 つ目は 1 類、2 類といったよくわからない感染症に関して拒否できる。

3 つ目は診療応需体制を解いている状態で命に関わる緊急事態でない場合で近所の病院に紹介できることが可能であれば必ずしも診なくていい。

医療安全で京都府医師会の医事紛争担当でリアルな案件を見ているが、やはり応召義務がネックで、最初の病院でよくわからず、次の病院でますます悪くなり翌朝死亡にいたったというような案件は必ず民事紛争になる。過失が認められれば損害賠償請求は十分認められる。こういった場合、労働時間超過が本当に患者さんの診療を拒否できる有意な正当な事由になるのか難しい、国はそれぞれの案件で考えると言っているが、それでは困る。労働時間を規制するなら、超過労働時間は有意な正当な理由として国レベルでしっかり言ってもらわないと困る。病院に対して国から何か通達があるのかお聞きしたい。

水野) 非常に大事な点のご意見ありがとうございます。

国から通達があるかということについて、現時点で受けておりません。夜間の診療については手薄になる問題が指摘されていて、宿日直許可をとった病院が夜間の救急を止めている状況の病院が増えてきていて、4 月以降働き方改革の問題でさらにそういった病院が増えてきたときに三次救急に患者さんが集中する形にならないかという危惧は強く持っている。

当院の体制は当直しているのは内科医師 1 名で 21 時までは診療対応できる通常勤務体制を組んで、21 時以降翌朝 8 時 30 分までは宿直体制としている。

土曜、日曜、祝日の日勤帯については内科医師 1 名、外科医師 1 名の体制で比較的救急を受けられるようにしている。

宿直時間帯は内科医師 1 名であり、院内での急変対応に追われて外からの救急

を受けられない状況も発生している。1名の医師で対応できる範囲も限られてくる。かかりつけの患者さんや訪問看護ステーションでかかっている患者さんできるだけ対応しようとしています。

現在このような運用で進めているが、特段4月以降もこの体制を変える予定はないが、できるだけ地域の皆様が安心して利用できるよう対応したいと考えております。

柴山) 地域にずっと住んでいる色んな方々と話しをする機会があるが、この病院は地域住民から期待と重要視されている。病気、事故、怪我に対して対応いただくことが期待されているのでお汲み取りいただき対応していただきたい。

訪問看護ステーションについて紫明学区の中で鞍馬口医療センターが運営していることをご存じでない方おおうのではないかと。訪問看護に使う車に「鞍馬口医療センター訪問看護ステーション」と書かれていないし、電話番号も書かれていないので車に表示するようにしたらいいのではないかと。広報することで知らない方に認知してもらい結果利用者が増えると思うので是非やられたらいい。

市民公開講座について、地域での回覧と掲示板に掲載するようにお願いしている。公開講座で取り扱うテーマが住民が聞いてみたい、行ってみようかなと思うテーマにして欲しい。我々も協力するので来月以降も続けていただきたい。

山田) 市民公開講座について、参加されている方が少ない。参加されている方がどの地域からきているのか、半径何キロの方が来ているのかも知りたい。近所の方々が誘い合って参加できることが一番いい。

気になることとしては、トイレの便座クリーナーが切れていることがある。

もう1点はこちらの病院でかかって、他の専門的な病院へ紹介されることもよく聞く。府立医大や日赤と提携しているが時々武田病院へ紹介されるケースもあると聞く。高齢者になってくると通うのが大変。出来るだけ近くのこの病院で全部済ませたいのでよろしく申し上げます。

足立) 市民公開講座の参加者分布ですが、参加いただいた方にアンケートとお住まいを

記載いただいておりますが、その集計では病院近隣の住民の方が多かったです。広報の方も精力的に進めていきたい。

トイレの便座クリーナーの件については、病院のご意見箱にも投書があったことがあり、清掃業務委託会社に申し入れは行っているが、再度改善できるよう申し入れをしてまいります。

柴山) 昨今はしかの問題が報道されているが、抗体検査やワクチン接種はしてもらえるのか。

山崎) 抗体検査は血液検査で実施可能です。ワクチンに関しては品薄状態となっております。一般の方に接種できるような体制ではない。ご相談は受けるがワクチン接種は難しい。

5. 閉会の挨拶（山下副院長）

貴重なご意見、ご指摘を賜りましてありがとうございました。ご指摘いただいた件については職員へ周知し改善すべきところは改善するよう努力してまいりますので今後ともご指導、ご鞭撻のほどお願いいたします。

以上